

### ◆福島からのメッセージ 郡山市で生きるために



郡山医療生協除染活動の様子。

私たちは「郡山市で生き続けたい」と考え、「線量マップ」の作成に力を入れています。除染のためには正確な放射線量の測定と公表が不可欠です。そこで職員や組合員に線量計を渡して市内1万カ所以上を測定し、線量マップを作り上げました。マップを基に、線量の高い所を重点的に洗い流し、芝生を剥がすなどの支援をしてきました。また、マップを町内会やPTAに提供しました。

現在では、全国の医療福祉生協の支援により、郡山医療生協26支部すべてに線量計を配置し、線量計の貸し出しも行なっています。

今後は「いつでも誰でもどこでも」自分の体内や食べ物の線量測定ができ、注意事項や生活スタイルを考えられるように、計測器を整備しつつ、住民学習会の機会を増やします。また、子どもの筋力づくりやストレス解消のための「遊び場づくり」も推進していきます。

(放射線に対する取り組みについて、郡山医療生協専務理事の宮田育治氏に伺いました。)

## 全国の組合員理事、福島に集結

12月5・6日、日本生協連主催の「コープふくしまと被災地訪問企画」が行なわれ、全国から26生協43人の組合員理事らが福島を訪れました。これは、福島の実情を知り、今後継続した支援を行なう上で何が必要となるかを考える交流企画です(いわて生協では8月、みやぎ生協では9月に実施しました)。

コープふくしまからは24人の組合員理事・役職員が参加し、全国からの参加者に、震災当時の状況や現状について報告しました。2日目は、バスで福島県沿岸部被災地を視察したほか、現地の産地団体の話を聞いたり、コープふくしまの店舗などを見学したりしました。

富山県生協組合員理事の榊原礼子さんは「帰ったら、今回の訪問をみんなに話し、私たちも息の長い取り組みができるよう努力していきたい」と話していました。



夕食懇親会では、各生協が寄せ書きや手作りのプレゼントなどをコープふくしまに贈呈。



被災地視察の様子。まだまだ復興とは遠い現状に、息をのむ人も。

## 放射線量の低いところで、ゆっくりしてほしい



「雪だ！」靴がぐつしよりぬれても、遊び続ける子どもたち。



参加者からの線量計に関する質問に、丁寧に答える福島大学西崎伸子准教授。

12月17・18日、福島県生協連と福島大学災害復興研究所が主催の「福島の子どもの保養プロジェクト」が、放射線量の低い「磐梯高原リゾート・インぼなり」にて行なわれ、25組79人の親子が楽しい時間を過ごしました。このプロジェクトは、日本生協連の「つなごろうCO・OPアクションくらし応援募金」にて全国の生協・組合員から集まった募金やユニセフ協会からの募金を活用し行なわれています。

普段、なかなか外で思い切り遊ぶことができない子どもたちは、雪遊びをして、大はしゃぎでした。また、希望者には個人線量計の貸し出しも行なわれました。参加した野村のぞみさんは「線量が低いところに行けるだけで本当にありがたいです」と話していました。

このプロジェクトは、1/7より毎週末に行なわれます。保養参加への申し込みは、福島県生協連HPより可能です。  
<http://fukushima.kenren-coop.jp/>

### 【一言メッセージ】

こちらのコーナーは、そのとき、そのときの思いを、読者の皆さんにつぶやいていただくコーナーです。あなたの「つぶやき」お待ちしております。[action@coop-book.jp](mailto:action@coop-book.jp)